Trinity

キズナエピソード\_大鳥蒼\_03

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０

------------------------------------------

//ヴィジュアルノベル形式開始

その後、俺たちは練習デートの回数を重ね、

2人の間には徐々に、

居心地のいい空気が流れるようになっていた。

そして今日は、ショッピングデートの練習をする日だった。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//背景:渋谷

[蒼]

「女性誌のenenで読んだのだが、一般的なデートコースは

映画、ウィンドウショッピング、カフェでの休憩が

よくあるらしい。今日はそれでいこう！」

[とびお]

「……なぁ、いつもそんな感じだし

たまには全く違う感じにしないか？

相手に合ったデートコースも必要とだ思うんだ」

［とびお］

「近くで柔道の大会をやってるから、

それを見た後、神社でやってる祭りに行かないか？」

［蒼］

「面白そうだな！

大会って事はもう始まってるんじゃないか？」

［とびお］

「行ったらすぐ見れると思うよ」

［蒼］

「よし、行こう！」

//暗転

//背景:武道館

［とびお］

「……すごい迫力だったな」

［蒼］

「ああ、柔道の経験はないが、

試合の緊張感というのは

どの武道でも共通するものがあるんだな……」

［とびお］

「ん？　柔道やってたんじゃないのか？」

［蒼］

「オレがやってたのは剣道だ。

なんで柔道をやってたと思ったんだ？」

［とびお］

「いや、チンピラを取り押さえた時の動きが

柔道っぽかったからそうだと思ってた」

［蒼］

「あれはただの護身術だ」

［とびお］

「そうなのか……」

［蒼］

「それより、次は祭りに行くんだろ？

早く行こう！」

//暗転

//背景:屋台が並ぶ神社

[蒼]

「ハハハっ、とびお情けないぞ！

全然金魚取れてないじゃないか」

[とびお]

「いや、蒼が取り過ぎなんだよ」

[蒼]

「常に身体と精神を鍛えてるからこそ

できることだな」

[とびお]

「身体も精神も関係あるのか？」

//暗転

[蒼]

「はぁー！　楽しかった～！

今までのデート練習にはない

楽しさがあったな」

[とびお]

「そうだな。

俺もかなり楽しかったよ」

[蒼]

「不思議なもんだな。

とびおとは何度もデートしてるのに

こんなに楽しいなんて」

［とびお］

「一般的な所じゃなくて、

蒼が楽しめそうなデートコースにしたからだろ」

［蒼］

「オレが楽しめそうな……？」

［とびお］

「どんな事でも、その人の事を大切に想って、

その人のために考えてくれたものの方が

嬉しいんじゃないか？」

［蒼］

「その通りだな……」

［とびお］

「じゃあ何も不思議じゃないだろ」

［蒼］

「……とびお、オレを大切に想ってくれたんだな……」

［とびお］

「あ、いや、まあ、その……そうだけど……」

[蒼]

「なんだろう……。

昔、剣道の試合のときに起きていた鼓動を

今、胸で感じる」

[蒼]

「でも、このドキドキはなんだか熱くて……

これが鳴っている時は

とびおの顔を見ることが出来ないんだ……。」

[とびお]

「……俺も一緒だよ。

蒼のことを想うと、ドキドキする」

[蒼]

「とびお……」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

俺と蒼はその後しばらく

視線で会話するように見つめ合っていた。

そして、どちらからともなく唇を重ね合わせる。

//次ページ

初めてのキスと思われる蒼の唇には少し硬さがあったが、

彼女の温度と共に想いが唇を通して

流れて来るようだった……。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//18禁版の場合、ここからRシーン

//3話END